

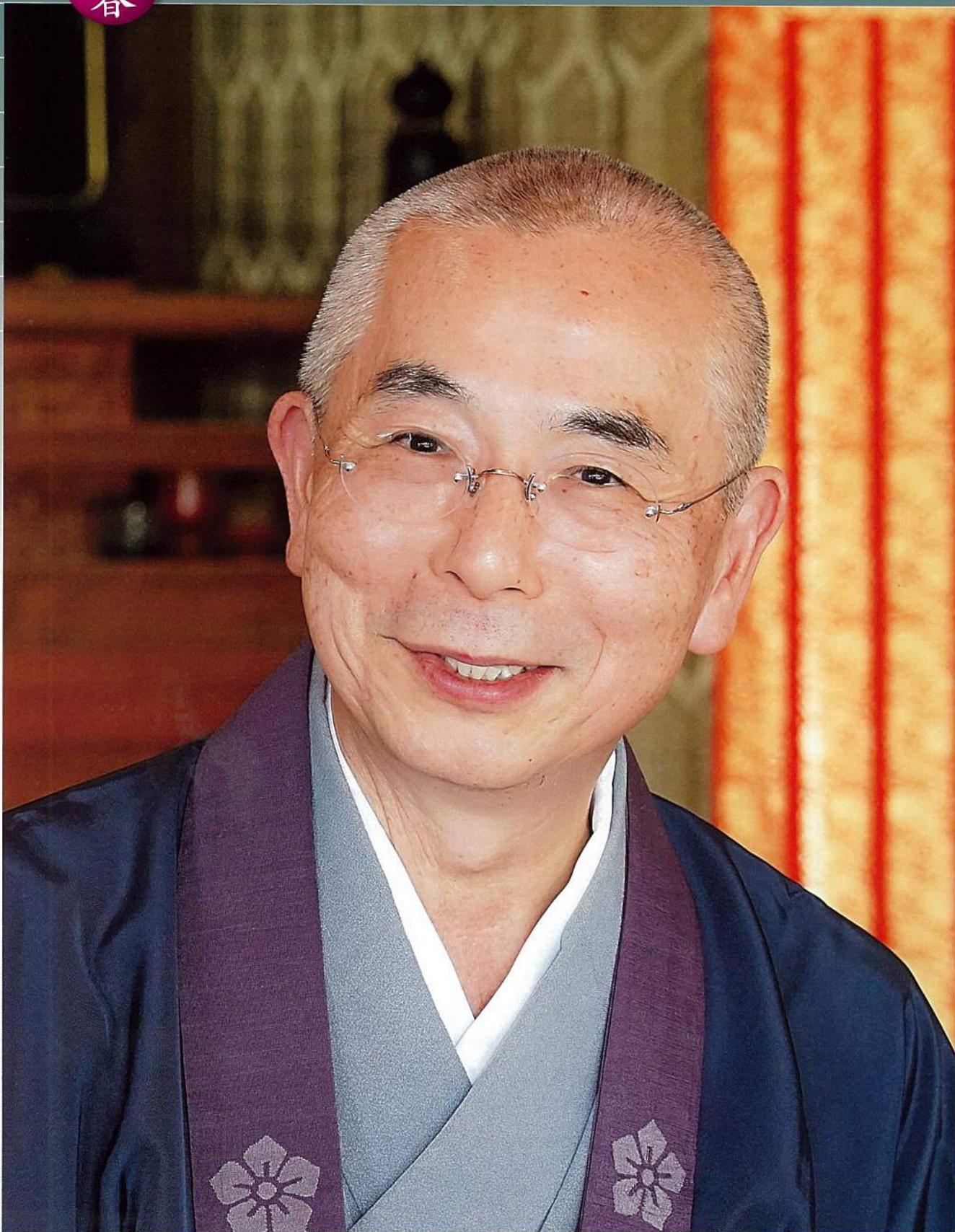
NAKA

公益社団法人 名古屋中法人会・広報誌 [なか]

2015

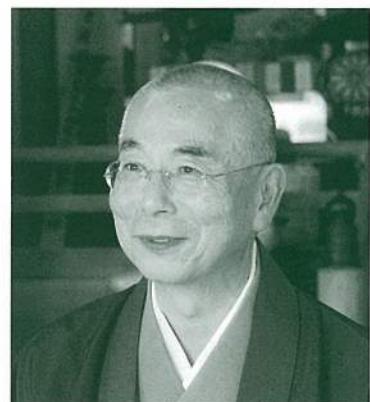
VOL.157

新春



2015年 新春号 目次

DIARY.....	1
新春のごあいさつ.....	2
公益社団法人 名古屋中法人会 会長 岡谷 篤一氏	
名古屋国税局 課税第二部長 栗原 克文氏	
局長インタビュー.....	4
名古屋国税局 局長 村中 健一氏	
名古屋市内9法人会合同講演会.....	8
俳優 笹野 高史氏	
《地域社会貢献事業》.....	12
《社長のやる気サポート》.....	21
お時間拝借.....	26
きよめ餅総本家 代表取締役 新谷 武彦氏	
健やかサークル	30
旬の食卓 金目鯛	
ものづくり愛知の至宝.....	30
松坂屋コレクション家康着用（伝） 美紋に蝶模様胴服	
季節を楽しむ和菓子.....	31
きよめ餅	
会員募集推進運動実施中.....	32
新春カラー探訪	34
尾張最古刹 やすらぎの郷里 犬山寂光院	
シリーズ・この人.....	36
繼鹿尾山 八葉蓮台寺 寂光院 山主 松平 實胤氏	
シリーズ・名古屋の技.....	40
PEN-LAND CAFE オーナー 高木 雅且氏	
《事業予告》	44
《社長のやる気サポート》	45
《NEWS》	48
《税務のお知らせ》	50
《新入会員の紹介》	63
《会員サロン》	64
住吉の語り部となりたいー⑤	
料亭つたも 主人 深田 正雄氏	
ポーランドという謎ー①	
会友 藤間工業株 代表取締役 会長 藤間 敏雄氏	
《行事メモ》	68



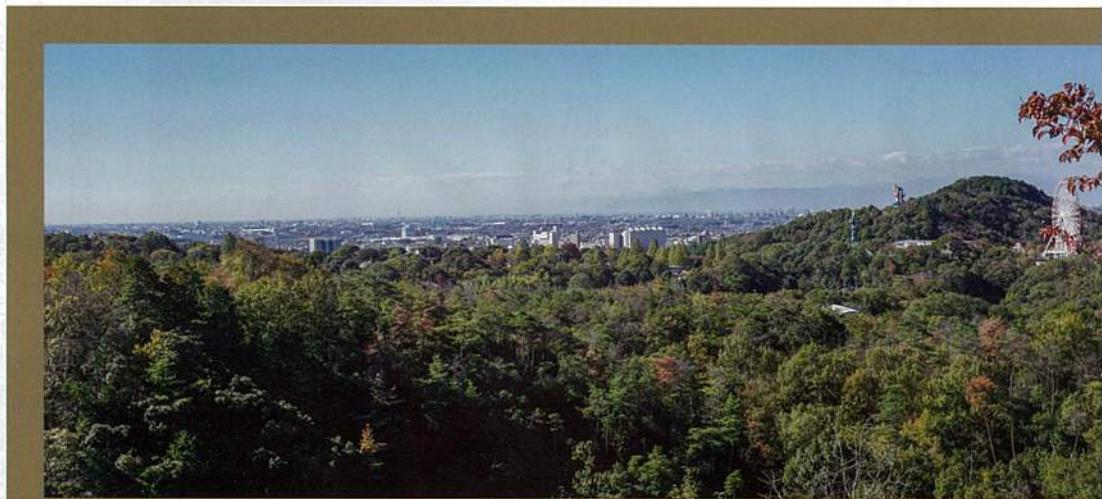
表紙の人
つがおさん はちょううれんないじ じゅうこういん
継鹿尾山 八葉蓮台寺 寂光院

山主 松平 實胤氏

【プロフィール】

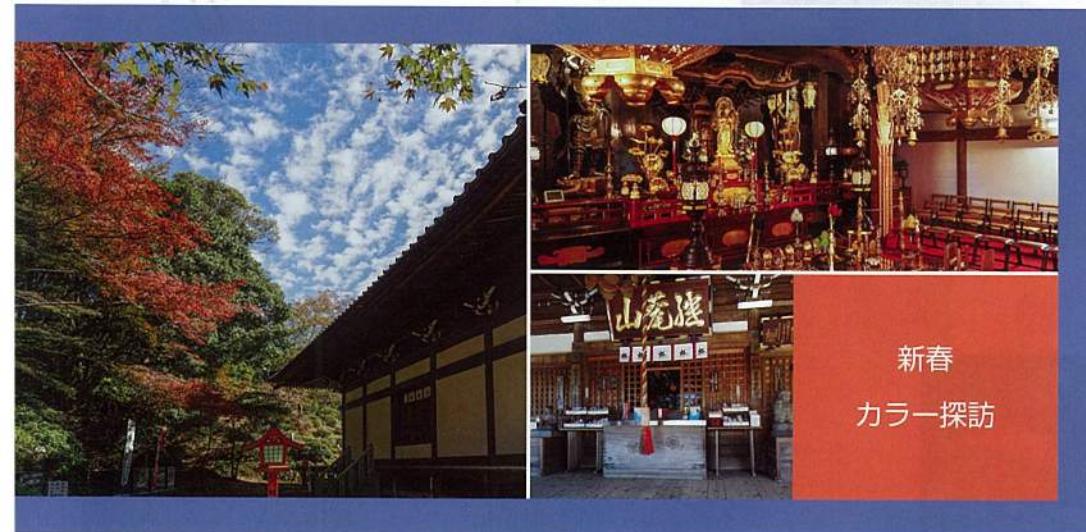
昭和21年7月名古屋市中区錦生まれ
名城小分校（現御園小）・東海中・東海高卒
昭和44年3月 大正大学仏教学部卒業
昭和48年3月 名古屋大学大学院
印度哲学科修了
昭和48年5月 寂光院山主 就任

尾張最古刹 やすらぎ



お寺へお出でになられる際は、お車でのお参りをお勧めします。
お寺へお出でになられる際は、お車でのお参りをお勧めします。
お寺へお出でになられる際は、お車でのお参りをお勧めします。
お寺へお出でになられる際は、お車でのお参りをお勧めします。

の郷里 「犬山寂光院」



春先の桜や山桜、山つつじ、夏の青もみじと新緑、秋の紅葉、そして冬の凜として靈気ただよう犬山寂光院は、古来より四季折々の美しさで絶賛され、特に秋の紅葉は「東の香嵐渓、西の寂光院」と言われ、「もみじでら」として親しまれています。

寂光院のある繼鹿尾山は、かつては「靈山」と呼ばれてきました。

尾張最古刹・千手觀音がいます靈気満つる山寺であることは、今も昔も変わりません。昨今は、それを「パワースポット」と呼ぶようになりました。

呼び方は変わっても、凜とした靈気を実感できるのは、寂光院が尾張最古刹といわれるよう、1350年余の長い歴史と、飛騨木曾川国定公園・名勝木曾川にある風光明媚な山寺ならではのことでしょう。

寺号：継鹿尾山 八葉蓮台寺 寂光院

宗派：真言宗智山派（總本山智積院・京都東山七条）
開山：白雉5年（654）

寺域：33万m²（10万坪）全山飛騨木曾川国定公園指定
参道：山麓より山頂迄1,350m 全参道東海道自然歩道指定
交通：電車名鉄犬山線「犬山遊園」駅下車 タクシー5分 徒歩20分

命より大切なものがいる

継鹿尾山
はちよろれんたいじ

八葉蓮台寺
じゅつこういん

寂光院
じっこういん

山主

松平實胤氏
まつだいらじついん

生きる勇気が湧くようなお寺に

——明けましておめでとうございます。新年のご抱負をお聞かせください。

寂光院は、飛騨木曾川国定公園、名勝木曾川にある尾張最古刹の千手觀音靈場で、古来より“やすらぎの郷里”として多くの人々の心の拠り所となり、今に至っています。

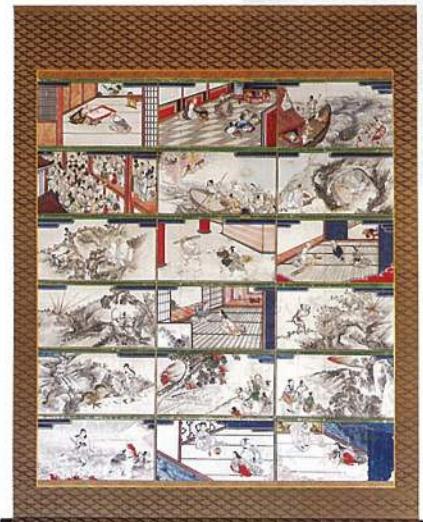
近年、地球の温暖化により自然環境が悪化し、また核家族化による家庭環境も変わり、ハラスメント、いじめ、詐欺など社会環境も悪化して、未来に希望が持てないような極めて閉塞感のある時代になりました。

こんな時代ですから、寂光院の「本物の自然に出会う」「古刹の仏さまに出会う」、名実ともに「やすらぎの郷里」としての機能をしっかりと整え、お訪ねいただく皆様から、「前向きに生きる勇気が湧いた」と満ち足りて帰って戴きたいと思っています。また、今年は、少しでも住みやすく、明るい年になってほしいと願っています。

——寂光院の新年の様子と年中行事をお聞かせください。

新年は除夜の鐘で明けます。山上本堂の脇にある鐘撞堂で、尾張から美濃まで見はるかす百万ドルの夜景を眺めながら、凛とした寒さの中、一年を振り返り、また新たに一年に希望を託して除夜の鐘を撞きます。元朝からは大護摩祈祷を厳修して、初詣での皆様方をお迎えいたします。

とにかく寂光院の初詣は風情、趣、ご利益ともに値千金、一年のスタートにふさわしいお参りです。そして1月18日は「初觀音大祭」です。3月5日はご本尊の体内仏の千手觀音像を各自のお手に戴く珍しい行事「おいただき」、8月9日は千手觀音最多功德日「九万九千日大祭」、これで三大



取材日時／平成26年11月6日(休) 14:00～15:00

取材場所／犬山 寂光院 聖徳殿

ききて／森田文二・中山智雄・岩田加津子・清水正彌



祭です。

——寂光院の由来を教えてください。

開山は654(白雉5)年で今年1361年目を迎えます。創建時は白鳥山神宮寺という名称でしたが、奈良時代に継鹿尾山八葉蓮台寺という名前に改まったと言われています。

白鳥山という山号の如く、熱田神宮さまとのご縁が深いお寺です。当山に伝わる『継鹿尾山縁起』に最初に登場するのは日本武尊の誕生です。村雲の剣(後の草薙の剣)で東征した後、伊吹山麓で大蛇の毒にあたり熱田の妃のもとに戻られますが、妃の手当もむなしく命を落とされます。日本武尊は白鳥となって伊勢を目指したという神話がありますが、それが後の継鹿尾山の由来に大きく関わります。

当山のこのあたりを獵場としていた寺沢増彦という獵師が、あるとき大きな鹿が岩の上に寝そべっているのを見て弓を振り絞りましたが、あまりにも神々しくて射損じます。翌日も、同じ場所に寝そべっていたので、今日こそはと思って矢を射ると、尾に当たりました。尾は天空高く舞い上がり、その尾から金色の一寸七分の觀音さまが転がったのです。尾は降りてきて鹿に繋がり、鹿は何事もなかつよう山の中に消えたという伝説があります。これが継鹿尾山の名の由来です。日本武尊とその千手觀音さまとの由緒は長く続きますので省きますが、当山のご本尊千手觀音さまは日本武尊の神魂の靈像として今に伝承されています。

当山のご詠歌は「なるみがた 鹿の継鹿尾に へだておき いざやなびかん くさなぎのみや」です。草薙の宮の熱田さまは昔は海辺で、そのあたりを「鳴海潟」と言っていたのでしょうか。へだておきは「目指して」という意味で、いつも日本武尊が継鹿尾山に心を寄せているということです。

日本武尊とご本尊千手觀音さまとのご縁はあくまでも伝承ですが、継鹿尾山が具体的に文献に登場するのは14世紀以後の事です。継鹿尾山縁起にも登場するのですが、当山には「一切經(すべての經典)」が完備されているということでした。全国の学僧が經典を拝讀したい、写經したいと訪ねてきます。それで当山は全国区になりました。今なら国会図書館の役割を果たしていたのです。そのような学僧方が故郷に帰り、継鹿尾山で勉強したということを文献に書き記しております。

当山で勉強された方に日峰禪師がおられます。後に古本山瑞泉寺を開かれ、更に臨濟宗大本山妙心寺の中興開山となられる名僧です。そのような逸材が沢山巣立たれた華やかな時代もありましたが、栄枯盛衰は常で、次に歴史に登場するのは1565年(永禄8年)9月18日です。当山には織田信長公花押入りの判物が伝えられております。信長公が柴田勝家を伴って寂光院を訪ね、当山に黒印50石、山林15万坪を寄進したと書かれております。現在は10万坪程ですが、信長公由來の土地を伝承しているということです。明治維新で上地令にあいましたが、明治35年二代前の住職で名僧(菩提院結衆・大僧正)と言われ書家でもあった岩田大法(号・雲岳)和尚のときに払い下げを受け今に至っております。

——風光明媚な環境ですね。

道元禪師の名歌を私が勝手に拝借して「春は花 夏は緑 秋は紅葉 冬凜として靈気ただよう」と当山の風光を紹介しています。古来より四季折々の美は絶賛され、特に秋の紅葉は「東の香嵐渓、西の寂光院」と言われますが、春先の桜や山桜、山つつじ、青もみじ(新緑)もこのほか素晴らしい木曽川の風景と相俟って見事です。



すべての人生が意味あるものに

——松平山主のお生まれとご出身地を教えてください。

生まれたのは中区錦2丁目です。まさに名古屋のど真ん中が生家です。袋町の「お聖天福生院」の二男で、今は兄が住職をしています。

——大学時代の思い出をお聞かせください。

大学は東京の大正大学です。大須観音の岡部さま、成田山萬福院の竹島さまは同窓です。3、4年の頃に仏教青年会という宗派を越えた勉強会がありまして、各宗派の皆様とお付き合いが増えました。将来の仏教をどうするのか、形骸化している仏教を本来の姿にしなければと、学生ですから、ずいぶん張り切ったものです。そのときの仲間が今各宗派のご重役になっております。

勉強は子供のころから好きでした。東京には東海中学・高校の仲間が大勢いて頼りになりましたが、大学生らしい遊びもせず、もっぱら下宿と大学の範囲しか出歩くことはありませんでした。

卒業のとき父の厳命で名古屋に戻りましたが、さらに勉強したいと名古屋大学大学院印度哲学科に入学しました。印度哲学の世界では音に聞く北川秀則という教授につきましたが、とても厳しい先生で、私の人生の中で「一番よく勉強した」という思い出多き大学院生活でした。

——本をお読みになるのがお好きだとお聞きしました。

本が好きというよりは、探求心だけはあったのでしょうか。自分の気になるところだけ集中して拾い読みするという要領のいい学生でもありました。

——寂光院の山主になられたきっかけと、山主として40年、これまでの歳月をどのように感じられていますか。

いろいろなことがありました。当時はそう思えなかったことが、今ではすべてが「私が私に成る為の仏縁だった」と思えるようになりました。人生に無駄なことはあります

ん。すべて意味があるのですね。

大学院在学中に、犬山に静かなお寺があり、そこなら思う存分勉強ができると言われて当山に来ました。それがご縁で、ご住職が亡くなられた時になんと私が喪主を勤める羽目になり、その後山主となりました。しかし当山は昭和34年の伊勢湾台風のダメージから立ち直れなく、当時あちこちの建物の雨漏りが激しくて畳に草が生えているほどでした。絶望的な状況でしたが、父や兄に励まされ、少しずつ皆様のお力添えを戴き、お寺の復興整備に追われた40年でした。

環境は命より大切なもの

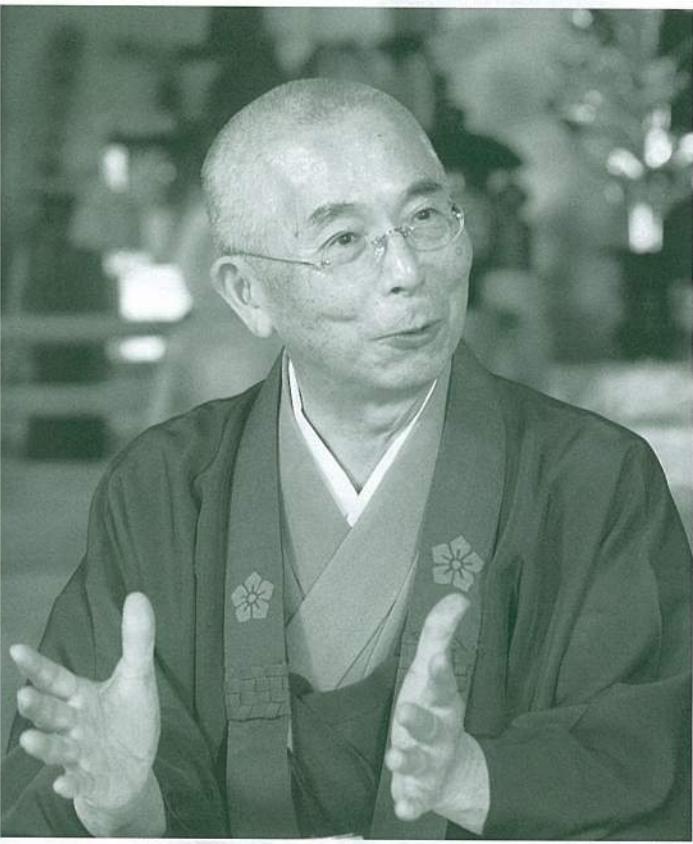
——ご著書・新聞・講演・テレビ・ラジオで、いろいろ提言されていらっしゃいます。一番大切にされていることをお聞かせください。

「大切な命」と「大切なこと」があります。大切な命は命です。しかし自分の命が大切と思うあまりに利己的になってしまいがちです。

命より大切なものは環境です。福島の原発事故によって、命は風前の灯になりました。人は誰でも環境（天地自然、天地の恵み、人、モノ、自分を支えて下さるすべての条件）に生かされて生きているのです。日本人が大切にしてきた「おかげさま」という言葉が失われて久しいです。もちろん大切な命は命です。同時に「命より大切な命がある」と知ることが「大切なこと」だと思います。

——NHK総合テレビ『うまいもの名鑑』にご出演されました。

NHKの「宗教の時間」に出させていただいたことがあります。東京のテレビ局での番組も経験しましたが、あるときNHKの『うまいもの名鑑』でお茶の名産地静岡の街を歩く企画の出演依頼が舞い込みました。お茶は中国から



お坊さんがもたらしたということで、私は作務衣を着て一人で30分番組を担当したのです。また東海ラジオでは、各分野で活躍する人と対談する『松平實胤の一期一会』という番組を持ったこともあります。しかし、坊さんは本来の宗教活動が勝負と思い、その後「法話や講演」以外、真面目に坊さんの仕事をしています。

この世は無常、怠ることなく精進

——座右の銘・これから夢をお聞かせください。

お釈迦様の遺言なのですが、「時は移り行くものである。不放逸によりて精進せよ」、言い換えれば、「この世は無常である。怠ることなく精進せよ」ということです。

これは私が大学院時代に出会ったとても思い出深い言葉です。仏典にはお釈迦様が亡くなられた場所は場末の町と出てきます。お供の阿難がお釈迦様に「お釈迦様ほどの方がこんな場末の町で亡くなるべきではない」と提言します。しかしお釈迦様は「私の臨終の地はここをおいて他にない。誰でも、いまここで変更できないのだ」と言われるのです。仏教は縁を説くのですが、「縁」とは自分の意志と努力の到底及ばないところで決定される条件のことです。その縁で人生は左右されていくのです。逃げることのできない「今ここ」をどう生きるか、「縁」をどのように受けとめるかが仏教の最重要課題です。

このご遺言はそれ以後の私の座右となっています。

——今を生きる私たちにメッセージをお願いします。

私どもは、損か得か、苦か楽か、カッコいいか悪いかで行動を決定してしまいます。「苦」とは、自分がそうありたいと思いながら、そうなれない状況を迎えると苦しいと感じます。自己矛盾です。

では、どうしたら思い通りになるのか。私が68歳になる今日までに「やった！」と快哉を叫んだ時間を全部合わせ

ても1時間にもなりません。それに至るまでの辛抱、我慢、こらえる、耐える、待つという時間が99.99%です。だれでも苦を避けて楽を望みますが、楽をして幸せになることはありません。得をもとめ楽をして見栄ばかり気にしていると、本物を身につけることに縁遠くなります。

苦の反対は楽ではありません。喜びです。苦しんで苦しんだ末に、時間はかかるかもしれません、「その苦しみを越えて今の自分になれた、良かった！」と思えた時、どなたにも微笑みが浮かぶ筈です。

——健康法はいかがですか。

平成22年まで一日に2回以上本堂まで320段の階段を上り下りしていました。若い頃は5、6回は上り下りしていましたから、今でも足腰は強く、「もっとゆっくり歩いて」と家内から言われるほどです。42歳のときに開腹手術を受けて以後不整脈になってしましましたが、他は今のところ健康です。空気がいいところにいるからでしょう。

——ご趣味は？

とりたててありませんが、檀信徒の皆様と全国のお寺さんを巡拝させて戴いたことは私の財産になっています。定番の西国坂東秩父の百観音、四国八十八所をはじめ北海道から九州まで全国の観音靈場はほとんどお訪ねしました。

また私の敬愛する「ひろさちや先生」とインドを中心とする文化圏、インドをはじめスリランカ、タイ、ミャンマー、ラオス、ベトナム、カンボジア、インドネシア、パキスタン、シルクロード、中国の仏跡を訪ね歩きました。ユダヤ教キリスト教イスラム教の聖地エルサレムの巡礼は、モーセが神の声を預かった（預言）シナイ山にも登りました。多くの巡礼地へ行けたということは楽しみであったからと思います。

——今日は分かりやすく深いお話をありがとうございました。光栄に存じます。これから松平山主のご健康とご活躍を心より願っています。